



新春の企画展「印刷の歴史」は3月16日まで

新しい年も立春を過ぎてもう3月です。近くの梅林公園の梅も今が一番の見時となり、郷土資料館にもたくさんの方においでいただいています。テレビドラマの影響もあってか職人さんが手で彫った「木版」の資料には注目が集まっているようです。また、すこし前の学校や回覧板等で、誰もが手に取ったことのある「ガリ版刷り」については懐かしく思っていただけ、小さかったあのころのお話に発展していきます。学校の先生やお役所にお勤めだった方が、お仕事上でガリ切りをしたり、インクのついたローラーで一枚一枚印刷した思い出を語られるお姿も今では貴重な歴史を伝えていただける「資料」だと感じたりします。



「ガリ版（謄写版）印刷機」

ヤスリ盤の上で紙にロウが薄く塗られた原稿用紙に鉄筆で文字・線・絵などをかくと、ガリガリと音がします。原稿用紙にできた細かなキズからインクがにじみ出て印刷ができます。エジソンの発明に基づく印刷技術なのですが、とてもシンプルで、郷土資料館にあるタイプライター、ワープロ、パソコンなどとは違って故障知らずで、近くの小学校で分けてもらったインクで再現できました。



「ヤスリの台」

「鉄筆・修正液・定規」

「原稿用紙」

